

式辞（令和2年度卒業式）

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、保護者の皆様におかれましても、お子様のご卒業、本当におめでとうございます。

昨年につき、コロナ禍における卒業式となりました。昨年は、保護者の方々も、ご来賓の方々も、ご列席たまわれず、教室において、担任の先生方に手渡してもらう形式での開催でした。しかし、今年は盛大とまでいきませんが、こうして体育館で皆さんと、そして、保護者の方々と一緒に別れが出来ることを、教職員一同、とても幸せに感じております。

さて、この1年で世界は激変しました。新しい生活様式という名のもと、行動が規制され、高校生の皆さんには、部活動の大会がなくなったり、学校行事が縮小されたりと、不完全燃焼の高校生活だったかもしれません。

ちょっと振り返ってみますと、夢と希望に満ち溢れた3年前は平成でした。遙か昔の様な気がします。1年生でのキャンプでは、雄大な景色を堪能しました。2年生での修学旅行は、本当に行けて良かったと思います。最初で最後の2月の九州縦断の旅を十分に楽しみました。

そして、最終学年の3年生、さあこれからという時に4・5月の休校。そんな中、10月の体育祭では、3年生としての誇りと伝統を、後輩たちにたくさん残してくれました。応援団の白組団長・田角君、赤組団長・山本君、全校生徒を、短い時間で本当に良くまとめ上げました。感動しました。本当にありがとう。

ところで、卒業生の皆さん、北陵高校で過ごした3年間はどうか？

一生忘れないような経験が出来ましたか？

大切な仲間と巡り合えましたか？

今まで通り、行事を通じて、クラスの仲間との繋がりを、もっと感じてもらいたかったし、後で振り返ると恥ずかしくなるような青春の1ページを経験してもらいたかったと考えていました。しかし、今日の卒業証書授与式での、皆さんの晴れやかな表情や、卒業アルバムでの笑顔、そして、卒業文集において、周りへの感謝の気持ちで溢れている内容を読んで、例年通りの北陵生だな、と安心しました。高校時代の思い出というのは、年を取っても色褪せないものです。私も、朝ご飯に何を食べたか、忘れることのある今日この頃ですが、不思議なことに高校時代にあった、ある出来事を鮮明に思い出すことが良くあります。これからの人生に、それぐらい強烈なインパクトを残すと思います。

また、皆さんの卒業文集を読んで、強く心に残るものがありました。

『今まで、たくさんの人に支えられてきた。そして、私もいつか誰かを支えられる人になりたい』

『ここで出会った仲間と一生付き合っていきたい』など、

このようなコメントが数多くみられました。こんな考えを持つ卒業生の皆さんを誇りに思います。こんな時代だからこそ、人に優しい言葉を掛けられるような、人に応援されるような人生を、歩んでもらいたいと切に願っています。

それでは、北陵高校最後の日に、皆さんに、どうしても身に付けてもらいたい能力を2つお伝えして餞の言葉にしたいと思います。

1つ目は「想像力を豊かにすること」です。

これからの世界は確実に予測不能な世の中になっていきます。間違いなく激変する未知の世の中を生き抜いていくには想像することが不可欠です。人間は、先のことがわからないから、想像力をフル活用します。現時点で「正解が無い」から想像するわけです。

もちろん想像力にも、知識や経験が必要です。知識や経験があればあるほど、想像力も広く大きく働きます。高校卒業の証書とともに、それなりの適応能力は身に付けていると周りの人は捉えます。しかし、何歳になろうが、失敗する時は想像力不足です。私もまだまだ失敗ばかりです。将棋で言えば、2手先・3手先までは読めたけど、5手先・10手先を読まなくてはならなかったと反省することばかりです。まだまだ若い皆さんですから、たくさんの事にチャレンジし、失敗してください。そして、失敗した時に自分なりの立ち直り方を早く身に付け、失敗を笑って過ごせる人生を送ってもらいたいと思います。

2つ目は「セルフペップトーク」です。

10月の講演を覚えていますか？岩崎先生がこの体育館で全身を使って伝えてくれましたね。このコロナ禍だからこそ、大切な考え方だと思います。自分に対して意識的に良い言葉を選んで言い続けることで、意識や心の在り方を変えられる、自分の夢・目標に向かって進んでいく方法です。

もちろんすぐには変えられませんし、強制されて何とかなるものではありません。しかし、今すぐに実行できることがあります。「感謝の気持ち」を持つ事です。育ててくれたご両親に感謝、卒業に導いてくれた先生方に感謝、辛い時、踏ん張る時に寄り添ってくれた仲間たちに感謝。全ての土台がそこからだと思います。

全豪オープンで優勝した大坂なおみさんのスピーチも周りへの感謝の言葉からスタートしました。対戦相手を褒め称えてからの感動のスピーチでした。

また、一足早く社会に出ていく人に伝えたいことがあります。もちろん人生の基本は、学校生活で学んでいますし、伝えてきたと自負しています。しかし、それこそ世の中には、何万という会社・仕事がありますので、「これ」といったアドバイスをするのは出来ませんが、ある会社の社長さんの言っていたことが心に残っています。『社会人として必要な能力は何ですか？』の質問に対し、それは、『仕事を断らないことです。頼まれた仕事を断ったらもう2度と依頼されない。まず、はい任せて下さい。と答え、やってみること。最善の方法を探してみる。それが社会人の基本です』と。

チャレンジできる人はセルフペップトークが出来る人です。また、失敗しても切り替えが早いのも特徴です。

テレビに良く出てくる、松岡修三さんの「君なら出来る」、ティモンディ高岸さんの「やれば出来る」という言葉にどれだけ多くの人たちが励まされているのか、想像することも大切なことだと思います。

「言うは易し、行うは難し」とよく言ったもので、私自身も恥ずかしい失敗がたくさんありますので、自分への戒めの意味も込めて「想像力」、「セルフペップトーク」、以上の2点を餞の言葉とします。

最後になりますが、保護者の皆さま方から、大切なお子さまをお預かりして、あっという間に三年が過ぎました。私たち教職員一同、本校の校訓にもある「誠実・創造・協調」の精神を柱に、生徒一人ひとりに全教員一丸となって指導に取り組んで参りました。

また、常に自分の子どもだったらという視点を持ちながら、日々の教育活動を行ってきました。時には不行き届きの点もあり、ご不満を感じられたこともあったかと存じますが、常に本校の教育に対して、温かいご支援とご理解を賜りましたことに、教職員一同、心より御礼申し上げます。

さあ、卒業です。これから私たちは、皆さんにアドバイスをすることも、心配することも出来なくなります。皆さんが進むべき新しい道で、はやく自分なりの目標を見つけ、その目標に挑戦してもらいたいと思います。新しい出会いを楽しみに、新しい世界で、北陵高校で身に付けたスキルをフル活用してください。そして、たまに母校に帰ってきて、その様子を教えてください。今度は人生の先輩としてのアドバイスが出来ると思います。私たち教職員一同、皆さんの人生が光り輝くように、心から応援しています。

改めて、この新型コロナウイルスが収束し、またマスクの無い状態で語り合えるのを楽しみに、それまでは、マスク・うがい・手洗いを励行し、コロナを乗り越えた、その先にある輝かしい未来を祈念して、式辞といたします。

令和3年3月2日
茂原北陵高等学校
校長 永野 卓

卒業、本当におめでとうございます。

「君たちなら 出来る」